

ダイジェスト版

グローバル経済社会における 会計・監査の意義と実際

名古屋大学 経済学部

2016年6月15日

公認会計士・監査審査会
会長 廣本 敏郎

本日の構成

- ・ 公認会計士・監査審査会について
- ・ 会計・監査の意義と役割
 - － 市場経済を支える簿記会計
 - － 会計の公的義務と公認会計士の役割
 - － 市場経済とモラル
- ・ 公認会計士業界を巡る最近の動向
 - － 「コーポレートガバナンス・コード」 （2015年6月）
 - － 「会計監査の信頼性確保のために」 （2016年3月）
 - － IFIAR本部事務局の東京設置決定 （2016年4月）
 - － 業務収入の動向

公認会計士・監査審査会について
公認会計士試験の実施
および監査事務所のモニタリング

公認会計士・監査審査会の概要

公認会計士・監査審査会（以下「審査会」という）は、一連の不正会計事件による会計不信の世界的な高まりを背景に、欧米での監査監督機関の設立と併行して、平成16年4月、独立して職権を行使する機関として設置されました。

審査会は、合議制の機関として金融庁に置かれ、会長1名、委員9名以内（公認会計士に関する事項について理解と識見とを有する者のうちから、両議院の同意を得て内閣総理大臣が任命）で構成されています。

<業務内容>

- (1)「品質管理レビュー」に対する審査及び検査
- (2)公認会計士試験の実施
- (3)公認会計士・監査法人に対する懲戒処分等の調査審議

審査会は、これらの業務を通じ、公認会計士監査の品質の向上を図り、その信頼性を確保することにより、我が国資本市場の公正性・透明性を高めることを使命としています。

審査会には、その事務を処理するために事務局が置かれており、事務局長の下、総務試験室及び審査検査室で構成されています。

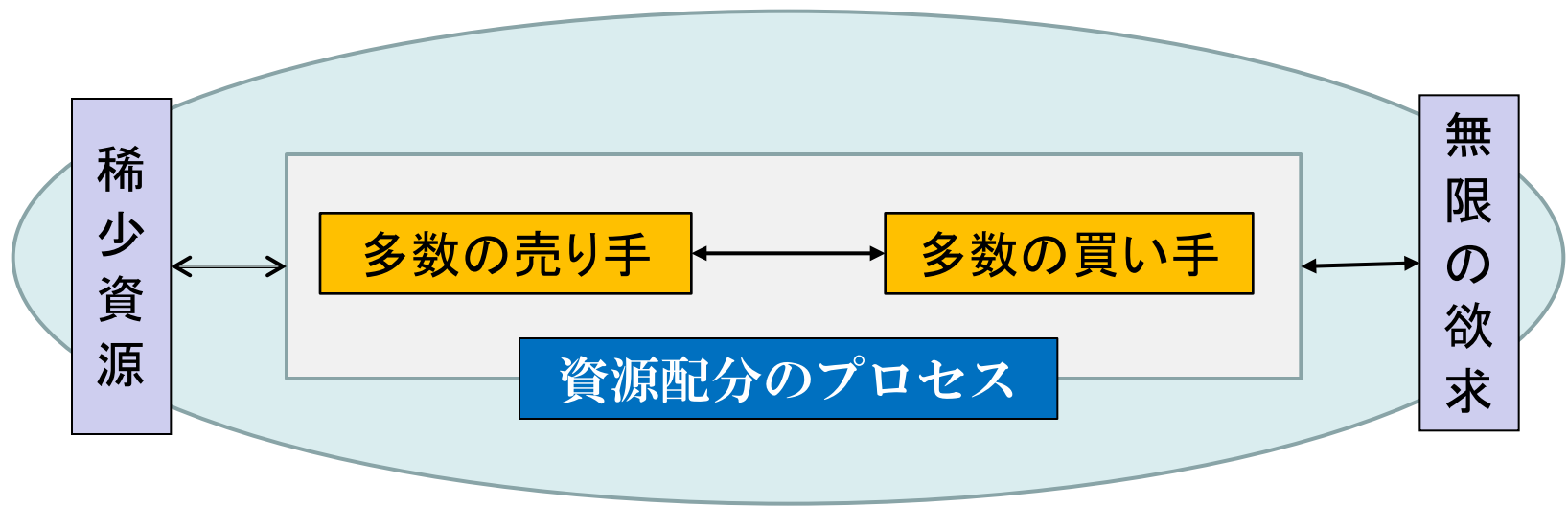
<組織図>



会計・監査の意義と役割

市場経済を支える簿記会計

市場経済の制度



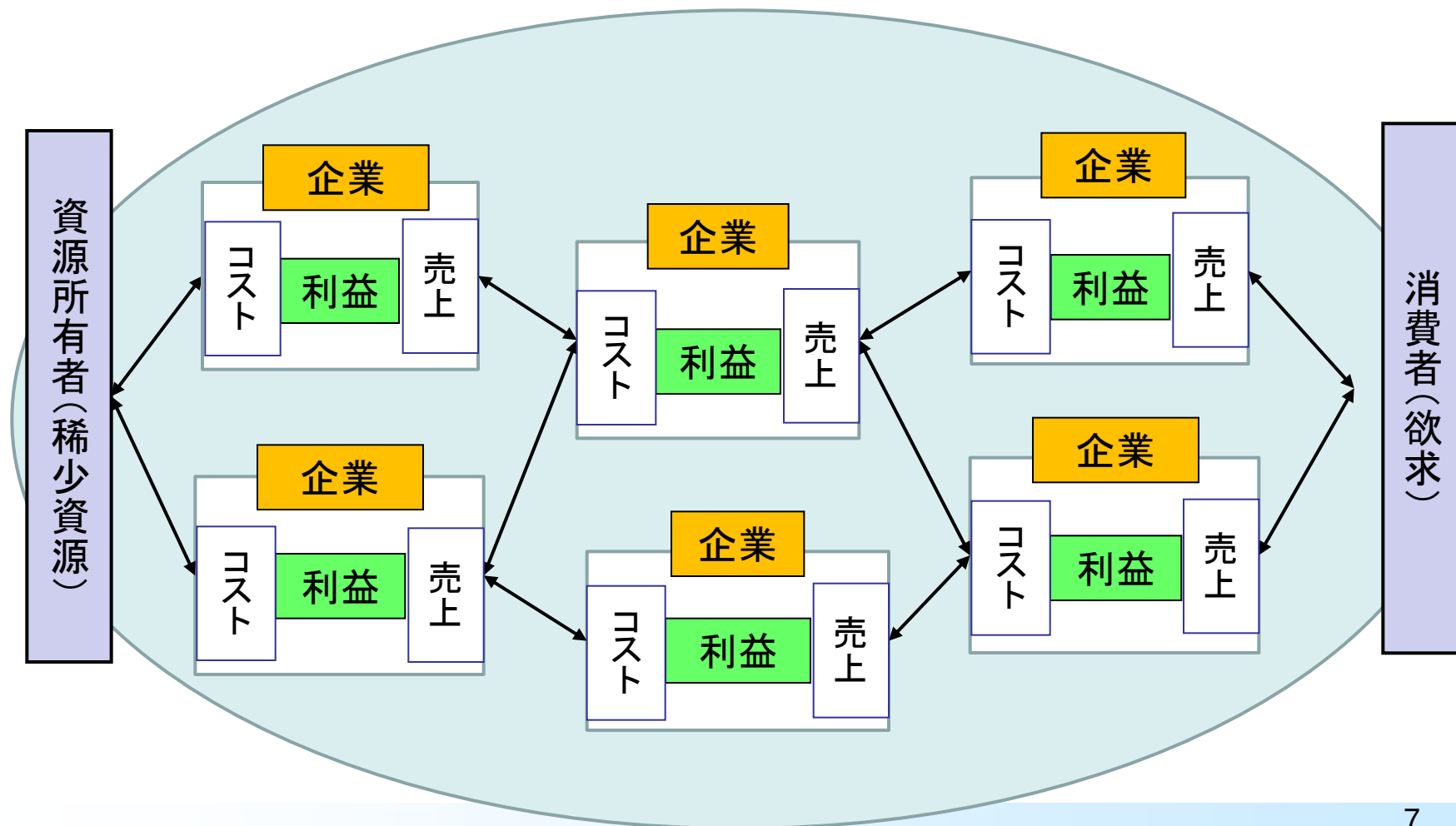
よい財・サービスを求める買い手と、その財・サービスの売り手とは、それぞれの私欲がぶつかって市場で競合し合い、その競争の中から、人々が欲するよい財・サービスを安く供給し得た企業が生き残っていく。

この基本的な論点を分析的に明らかにしたのがアダム・スミスの経済学であり、それが自由主義経済の基礎となった。

(今井・金子『ネットワーク組織論』岩波書店、1988年)

会計なくして経済なし

～企業の行動原理「売上最大、コスト最小」～



会計・監査の意義と役割

会計の公的義務と公認会計士の役割

所有と経営の分離

- 企業が小規模で、その経営はオーナー経営者によって行われ、また、取引が比較的単純な性格のものであったときには、会計基準の必要性はほとんどなかった。
 - しかし、大企業が出現して、所有と経営の分離傾向が生じると、会計の任務は拡大された。すなわち、オーナー経営者のために会計を行うことに加えて、不在出資者への情報提供という機能が生まれた。その結果、会計基準の必要性が大きく増大した。

企業の社会的責任と会計の公的性格

- 大企業は特に、出資者が唯一の利害関係者ではない。大会社は準公共的な制度であり、大規模企業の行動を通じて社会的協力を遂行する機構である。大会社の業務活動は、直接の経営者や株主達の関心事たるにとどまらず、会社経営の責任は、広く各種の方向に行き渡っている。
 - かくして、信頼し得る適切な情報を提供するという会計の義務は公衆の利害に結びつき、会計は公的な性格を帯びてきた。

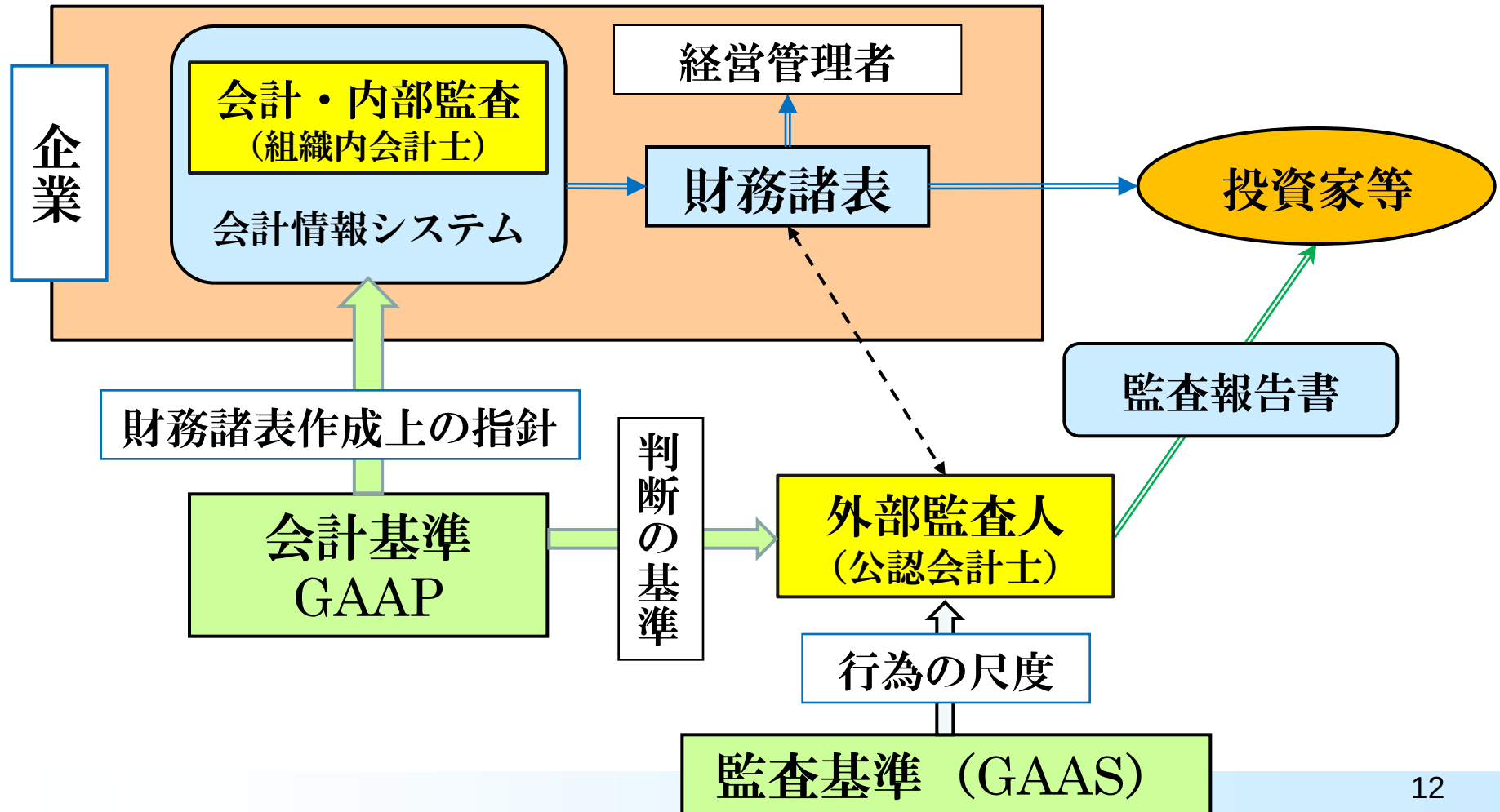
経営者の責任と公認会計士の役割

- 経営者は、その公的な責任を自覚することを要求されると共に、会計基準を発展せしめ、また利用することが必要となってくる。
- 会計の公的な義務が認識されているかどうかを見究めるという役割の多くは、公認会計士の肩にかかっている。
 - 公認会計士は、この責任を果たすため、広い理解と鋭い正義感、そして、高度の独立性を備えなければならない。

(ペイトン＝リトルトン (中島省吾訳) 『会社会計基準序説』
森山書店、1958年、1-6頁)¹¹

財務情報の信頼性確保のシステム

～公認会計士の重要性～



会計・監査の意義と役割 市場経済とモラル

アダム・スミスが描いた市場経済

- 経済の世界は、「自分自身の境遇を改善せんとする欲望」によって導かれている世界である…利己心というものが経済という世界の原動力である…
- （しかし）スミスによると、この利己心というものは、めいめいが何でも勝手放題なことをしてよろしいというのではなく、そこに一つの社会性がなければならないということになっている。社会的な枠のない、無軌道な、勝手気ままな欲望の追求というものは、人間の行為でもなければモラルでもない。

（高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、76頁）

わが国資本主義経済の原点

～渋沢栄一の理念～

- ・ 「日本の資本主義の父」と称される渋沢栄一は、利潤追求をめざす経済行為の中にも道徳が必要であることを悟っていた。
 - － 私が常に希望しているのは、「物事を進展させたい」「モノの豊かさを実現したい」という欲望を、まず人は心に抱き続ける一方で、その欲望を実践に移していくために、道理を持って欲しいということである。その道理とは、社会の基本的な道徳をバランスよく推し進めていくことに外ならない。

(渋沢栄一 (守屋淳訳) 『現代語訳 論語と算盤』
ちくま新書、2010年、89頁)

公認会計士業界を巡る最近の動向 「コーポレートガバナンス・コード」

コーポレートガバナンス・コード

基本原則 3

- 上場会社は、会社の財政状態・経営成績等の財務情報や、経営戦略...等の非財務情報について、法令に基づく開示を適切に行うとともに、法令に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組むべきである。
 - － 【原則 3－1. 情報開示の充実】
 - － 【原則 3－2. 外部会計監査人】

公認会計士業界を巡る最近の動向
「会計監査の信頼性確保のために」

会計監査のあり方に関する検討

- 今後の会計監査のあり方について、経済界、学者、公認会計士、アナリスト等関係各界の有識者から提言を得ることを目的として、「会計監査の在り方に関する懇談会」を開催し、その提言等を踏まえ、会計監査の信頼性の確保に向け、金融庁として必要な対応を行う。
 - － 「会計監査の在り方に関する懇談会」提言―会計監査の信頼性確保のために―」（平成28年3月8日公表）

提言—会計監査の信頼性確保のために—

- 資本市場の信頼性を確保し成長資金が供給されるようにしていくためには、企業が財務情報を適正に開示することが必要である。
 - － また、企業が経営戦略を策定し、持続的な成長・中長期的な企業価値の向上を目指すうえでも、自らの財務状況を的確に把握し、株主・投資家等と共有することが不可欠である。
- 会計監査は、このような企業による財務状況の的確な把握と適正な開示を確保し、その適正・円滑な経済活動を支え、これを日本経済の持続的な成長につなげていく前提となるきわめて重要なインフラである。

公認会計士業界を巡る最近の動向 IFIAR本部事務局の東京設置決定

内閣官房長官記者会見（平成28年4月22日午前）

- 今般、公認会計士・監査法人等を監督する各国・地域の当局で構成されるIFIARの常設事務局を東京に設置することが、ロンドンで行われた同機関の本会合で決定をされました。IFIARの常設事務局を東京に設置することは、我が国の国際的なプレゼンスの強化や東京市場の国際金融センターとしての地位向上の観点から、極めて重要であると考えます。したがって、我が国としては、金融庁及び公認会計士・監査審査会を中心に、外務省とも緊密に連携の上、政府一丸となって誘致活動に取り組んでまいりました。...我が国としては、IFIARの常設事務局が東京に設置された後も、IFIARが今後一層、国際機関として発展・成長し、グローバルな監査の質を高めていくことができるよう、積極的に貢献していきたいと考えます。

公認会計士業界を巡る最近の動向 業務収入の動向

海外の4大ネットワーク (2014年)

	EY	KPMG	Deloitte	PwC
業務収入 1ドル=120円	3兆1,000億円	2兆8,100億円	3兆8,880億円	3兆8,500億円
内訳 監査	1兆3,120億円	1兆2,250億円	1兆5,720億円	1兆7,710億円
税務	8,340億円	5,960億円	7,320億円	9,810億円
アドバイザリー	9,540億円	9,890億円	1兆5,840億円	1兆980億円
公認会計士などの 専門家人数	166,973人	148,701人	129,864人	152,708人

4 大監査法人グループ～2014年～

業務収入	新日本 EY	あずさ KPMG	トーマツ デロイト	あらた・京都 PwC
監査法人	964億円	807億円	865億円	312億円
監査業務	770億円	674億円	663億円	183億円
非監査業務 (アドバイザー業務)	194億円	133億円	202億円	129億円
監査業務比率	80%	84%	77%	59%
グループ合計	1,261億円	1,086億円	1,462億円	670億円
監査業務比率	61%	62%	45%	27%